

2009 年度 第 1 回常任理事会議事録

日 時: 2009 年 4 月 17 日 (金) 午後 6 時~午後
8 時 20 分

場 所: 東京富士大学 本館 1 階第 2 会議室

出席者: 森下高治理事長 藤田圭一副理事長
井上孝代 浮谷秀一 川本利恵子 大坊郁
夫 田中真介 谷口泰富 田之内厚三 玉
井寛 所 正文 内藤哲雄 藤森立男
(以上 13 名)

委任状: 向井希宏 蓮花一己

事務局: 浮谷秀一 (事務局長)
佐藤恵美 (事務局幹事)

I. 報告事項

1. 新理事長挨拶

2. 各委員会報告

(1) 機関誌編集委員会 (藤田副理事長: 前委員長)

①『応用心理学研究』第 34 巻第 1 号は現在印刷中である。第 2 号および「国際応心英文特集号」は編集集中である。

(2) 企画委員会 (内藤常任理事: 前委員長)

①12 月の公開シンポジウムの報告書はまだ作成できていない。

②大会時研修会については予定どおり進められている。研修会に関する事務手続きなどは大会開催校にお願いする。

(3) 広報委員会 (所前委員長)

①ニュースレターの原稿を昨日国際文献印刷社に入稿した。5 月の連休明けに発行の予定。

②ホームページは 3 月に更新した。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会

(浮谷事務局長: 前委員長)

①2008 年度後期申請者 2 名についてすべての手続きが終了した。

(5) 国際交流委員会 (内藤常任理事: 前委員)

①次回の国際応用心理学会 (27th International Congress of Applied Psychology, URL: www.icap2010.com) は、オーストラリア, メルボルン (メルボルン会議センター) にて 2010 年 7 月 11 日~16 日に開

催される。

②次回の会合は大会時にする。国際応用心理学会用の原稿は作成中である。

(6) 若手研究者支援委員会

(田之内常任理事: 前委員長)

①第 73 回大会から始まった支援であり、年々若手の発表が増えている。

3. 日本心理学諸学会連合報告

(藤田副理事長: 心理学検定担当委員)

①今年の第 2 回心理学検定は 2009 年 8 月 23 日 (日) に実施される。実施される会場は、昨年より増えて、札幌、仙台、東京、大阪、名古屋、金沢、岡山、福岡の 8 会場である。藤田委員は中京大学での説明会、および金沢大学での試験場責任者を担当する。

②大坊検定副局長より補足説明があった。昨年より今年度の受検者が増えることを見込み、会場を 3 ヶ所増やした。心理学検定の問題集およびキーワード集を作成し発行する準備を進めている。発行は 5 月頃を予定である。来年度以降は今年度より早い時期に実施し、大学院入試に活用してもらうことも検討している。昨年度は約 1,200 人の受検者があり、今年は約 2,000 人の受検者を見込んでいる。

4. 2008 年度第 75 回大会について

(藤森大会委員長)

①決算書に基づいて大会の報告をした。当初は厳しい大会運営であったが、最終的に黒字決算で終了できた。黒字分は、若手研究者支援基金に寄付した。

②大会の決算書の形式についての提案があり、大会責任者としての大会委員長の署名捺印のある報告書を作成することになった。よって、第 75 回大会についても同様の形式に報告書を修正することになった。

5. 2009 年度第 76 回大会について

(川本大会委員長)

①現在広告の依頼を準備中である。

6. その他

①事務局幹事を伊波幹事から佐藤幹事に変更

になったことが報告され、了承された。

II. 審議事項

1. 担当役職に関する件（森下理事長）

- ①(1) 2009年4月1日から2012年3月31日までの担当役職に関する理事長案が承認された。

2. 各委員会の委員に関する件（藤田副理事長）

- (1) 藤田副理事長を中心に進めてきた各委員会委員案のうち決定できた案が提案され、審議の結果承認された。内諾がとれていない委員については内諾が取れ次第決定とする。一部未決定の部分については順次決めていくことになった。その後委員長から関連した報告があった。

1) 機関誌編集委員会（所委員長）

- ①論文審査にあたり、委員長への負担が大きかった点を改善して、全体を6分野に分けて正責任者と副責任者を置き協力して審査に当たってもらうことにした。

- ②各分野の正副責任者を承認された。

2) 広報委員会（藤森委員長）

- ①研究分野がばらつくように、そして若手を含めた委員会構成を考慮しながら、候補の先生方に打診し決定していく。

3) 企画委員会（田之内委員長）

- ①公開シンポジウムなどの企画を考えている。

4) 国際交流委員会（内藤委員長）

- ①現在、今回のメルボルン大会終了後に出版予定の英文特集号に、英文の短報を投稿できるようにできないかを検討している。審査は国際交流委員会で行うことにする。これを事前にアナウンスすることによって、国際応用心理学会の出席者も増え、研究活動が活性化されることが考えられる。一方、英文論文の投稿が集中することが予想され、委員会委員の増員を考慮している。

5) 「応用心理士」認定審査委員会（玉井委員長）

- ①東京周辺ばかりでなく委員候補を考えている。順次内諾を得るようにしていく。

6) 若手研究者支援委員会

（代理：藤田副理事長）

- ①委員候補を考慮中である。

7) 学会賞選考委員会（藤田委員長）

- ①2年に1回行う予定であり、次回委員案を提案する。

8) 倫理委員会（藤田委員長）

- ①副理事長経験者、理事経験者が適任と考え、順次決めていく。

- (2) 今後の各委員会委員の決定にあたって、次のことが確認・了承された。

- ①各種委員会委員は、今回提案された候補者の内諾を得た時点で委員を委嘱する。辞退の場合は新たに候補者を探し、内諾を得た上で、最終的には常任理事会での承認によって決定する。

- ②国際交流委員会の委員数を1名増員して6名にして欲しいという要望があり、了承された。

- ③「応用心理士」の事務局は今までどおり東京富士大学内に置くこととし、「応用心理士」認定審査委員会の委員には浮谷常任理事を含めることが了承された。

3. 学会活性化プロジェクトチームに関する件（森下理事長）

- ①チームリーダーを蓮花常任理事にすることが提案され承認された。

- ②若手研究者支援の今後の進め方および「応用心理士」の社会的認知を広める方策など学会活性化について、1年後を目処にまとめてもらうことにした。

4. 大会での学会企画案に関する件

（藤田副理事長）

- (1) 第76回大会において機関誌「応用心理学研究」の投稿・執筆に関する学会企画研修セミナー（編集委員会担当）実施の提案がなされ、承認された。

- ①内容は「投稿の方法」などに関連した研修セミナーであり、話題提供者には投稿・審査の経験談や注意点などを話してもらい、その後質疑応答をする。研修セミナー終了後には、投稿相談のブースを設けることも考慮中である。開設時間については他の企画との兼ね合いで決めたい。

- ②会員だけでなく、非会員も対象にしてはど

うかとの提案があった。

- ③今回だけでは対応でききれない場合も考えられるので、今後の大会でも継続的に実施していったらどうかとの提案があった。

(2) この結果、現在企画委員会が担当している大会時開催の研修会を学会企画研修会（企画委員会担当）とすることが確認された。

5. 名誉会員掲載に関する件（浮谷事務局長）

- ①今年度対象となる3名の候補者のリストが示された。次回の常任理事会で決定することになった。

6. 委員会規程に関する件

（浮谷事務局長）

- ①各委員会の委員数など委員会独自の面があるので、委員会規程を見直したい。改正案は各委員会の中で審議していただき、次回の常任理事会前までに各委員会の案を取りまとめ、次回の常任理事会で決定することになった。

7. 2011年第78回大会の大会委員長に関する件

- ①第78回大会の大会委員長を内藤哲雄先生（信州大学）に委嘱することが承認された。

8. 新入会員審査および会員の異動に関する件

（浮谷事務局長）

- ①新入会員申し込みのあった11名について審査し、10名を承認し一部不明確な点がある1名を保留とした。保留者については、事務局で確認して、次回理事会で再度審議することになった。

向井有理子 蓮花のぞみ 三島浩路 中地展生 谷口淳一 林靖人 村橋卓也 森泉慎吾 紀ノ定保礼 武市尚大

- ②3/5 現在、会員数 1,158 名（内訳：正会員数 1,070 名、学生会員 3 名、名誉会員 41 名、終身会員 39 名、賛助会員 5 名）。前回の常任理事会以後、入会者 11 名、退会者 16 名。

9. その他

- ①国際交流委員会より、国際応用心理学会特集号のなかに、英文の短報を新たに加えたいとの提案があったが、すでに機関誌に英文短報が掲載されていることから、承認済

みと確認された。

- ②英文ショートレポートの件は、早い時点で広報委員会がホームページでお知らせを流す。

- ③ホームページの更新などは、広報委員の田中真介先生が担当することになった。

- ④事務局長より各委員会の決算報告書提出の依頼があった。

＊第2回常任理事会は、6月19日（金）午後6時から京都の同志社大学において開催予定。

＊第3回常任理事会は、8月1日（土）に京都大学において開催予定。

2009 年度 第2回常任理事会議事録

日 時：2009年6月19日（金） 午後5時30～午後8時00分

場 所：同志社大学 徳照館1階会議室

出席者：森下高治理事長 藤田主一副理事長

浮谷秀一 川本利恵子 大坊郁夫 田中真介 谷口泰富 田之内厚三 玉井寛 内藤哲雄 藤森立男 蓮花一己（以上12名）

委任状：井上孝代 所正文 向井希宏

事務局：浮谷秀一（事務局長）

I. 報告事項

1. 理事長挨拶

- ①前回の常任理事会で委員会委員の候補となっていた方全員から承諾が得られたとの報告があった。

2. 各委員会報告

(1) 機関誌編集委員会（藤田副理事長）

- ①国際応用心理学会議の「応心研」の初校が終わった。発行までもう少しかかる予定である。

- ②第34巻第2号の編集が終了し、初校を経て発行の予定である。

(2) 企画委員会（田之内委員長）

- ①委員が決定した。

- ②内藤前委員長のアドバイスを受けながらシンポジウムの企画など進行中である。

(3) 広報委員会（藤森委員長）

- ①委員が決定した。

- ②日心の「心理学ワールド」に準じ、「応心ワールド」のようなものを考えたい。
- (4) 「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)
- ①委員が決定した。
- ②今年度は「応用心理士」申請書類一式を新規に作成する。
- ③ 2009 年度前期の申請者 3 名について、8 月初旬に認定作業を終了する予定である。
- (5) 国際交流委員会(内藤委員長)
- ①委員は、国際応用心理学会での発表経験、および論文投稿経験を有する者を中心に選考し、決定した。
- ②2010 年メルボルンで開かれる国際大会での司会および企画は蓮花委員が担当する。以下、蓮花委員から補足説明があった。
- ・メルボルンでの国際大会に際し、話題提供者は日本のみでなく 2 カ国以上から出す必要があると指示があった。
 - ・招待シンポジウムは 6 月末に締め切り、その後個人発表者の応募を始める予定である。審査は名前・所属を伏せた状態で、2 名の審査者によって行われる予定である。
- (6) 若手研究者支援委員会(蓮花委員長)
- ①委員は大淵憲一、臼井伸之助、松浦常夫、加藤司(一般会員)であることが報告された。
3. 日本心理学諸学会連合について
(谷口担当常任理事)
- (1) 資料に基づき、日本心理学諸学会連合 2009 年度第 1 回定例理事会についての報告がなされた。要点は下記の通りである。
- ①役員選挙があり、新しい役員が決定した。
- ②日本マイクロカウンセリング学会の入会が承認された。
- ③2008 年度事務局収支決算(案)および 2009 年度事務局予算(案)が承認された。
- ④2008 年度検定局収支決算(案)および 2009 年度検定局予算(案)が承認された。
- ⑤国資格問題について議論した。
4. 2009 年度第 76 回大会について
(川本大会委員長)
- ①現時点での大会参加者は、ポスター発表 31 名、口頭発表 18 名、ワークショップ 3 名、大会のみの参加者 24 名である。

- ②参加の応募締め切り日は 6 月 10 までであったが、6 月 21 日までに延長した。
- ③現在広告取りを進めているが厳しい状況である。

II. 審議事項

1. 機関誌への論文投稿に関する件

(藤田副理事長)

- (1) 一般会員 A 氏の投稿論文の取り扱いに関し、以下の通り決定し了承された。
- ①審査に合格し 34 巻第 2 号に掲載が決定しているものについて、「常任理事会からの差し戻し」という形で、データ取り扱いに関する所属長承認の有無を著者に確認する。
- ②場合によっては所属長の連絡先を調べ、直接所属長に確認する。
- ③所属長の承認済みであれば、その内容を示す文書の提出を求める。
- ④上記に関する実務は、現編集委員会が行う。
2. 2009 年度予算案に関する件(浮谷事務局長)
- 1) 2009 年度予算案が提案され、一部修正のうえ承認された。
3. 2008 年度決算に関する件(浮谷事務局長)
- ①2008 年度決算報告は、処理が遅れているために次回に行う旨が報告され、了承された。
4. 名誉会員の掲載に関する件(浮谷事務局長)
- ①名誉会員の推戴は、規程に照らして該当者がいないことが報告され、了承された。
5. 委員会規程に関する件(浮谷事務局長)
- ①現在委員の人数を調整中であり、総会までに決定する予定であることが報告され、了承された。
6. 新入会員審査および会員異動に関する件
(浮谷事務局長)
- ①新入会員について審査が行われ、正会員 47 名、学生会員 9 名全員が承認された。また、前回承認が保留されていた 1 名が追加資料によって承認された。
- 秋本勝弘 藤巻貴之 青木みのり 嶋田佳織 横林宙世 飯塚一裕 八田純子 笠置

遊 岡田龍司 大嶽さと子 小菅律 中島
 紗由理 久木田隼 落合信寿 海部紀行
 兵藤守吉 中山友則 野間将平 津田葵
 白木光史 太田一実 大野順 鈴木 ゆみ
 遠藤嵩仁 赤嶺直子 山崎創 中野真希
 芦村和美 先間真奈美 西川敬子 中村歩
 野田智美 平田小百合 八田ほなみ 安原
 久美子 中川拓也 西澤和佳 櫻井良之
 清瀬一智 長尾史英 川俣幸一 渡邊幹代
 山口創 小澤弘希 甲原定房 山本茉樹
 木高浩 日比野マリカ

(学生会員 9 名) 横道友理子 竹内宣江 柴
 田美貴 淵上恭江 杉山里美 小川由希子
 上岡美紀 山田智世 田崎雅子

②6 月 15 日現在, 正会員 1,100 名, 学生会
 員 2 名, 名誉会員 41 名, 終身会員 39 名,
 賛助会員 5 名合計 1187 名。

7. その他

(1) 名簿作成について前回同様に作成したいと提
 案があり審議の結果, 以下の点を修正すること
 が決まった。

①編集規程で分けた 6 分野を記号で記入さ
 せる(複数可)。

②森下理事長名で, 「名簿の取り扱いに関す
 る注意事項」の文を掲載する。

(2) 学会活性化プロジェクトチーム(蓮花 PT
 リーダー)の委員が決定した。

①蓮花委員長, 浮谷(事務局長), 松浦(若手
 支援), 田之内(企画), 玉井(応用心理士),
 藤森(広報), 内藤(国際交流), 一般会員
 から磯友輝子(女性会員代表: 幹事), 谷口
 淳一(若手・中堅会員代表: 幹事), 以上の
 各氏に委員を委嘱, 承諾された。

(3) 公開シンポジウムと第 5 回常任理事会は, 駒
 澤大学で 13:30~16:30 に開催されることと
 なった。

＊第 3 回常任理事会は, 8 月 2 日(日) 15 時
 30 分からに変更して京都大学において開
 催予定。

＊第 4 回常任理事会は, 九州大学にて。

＊第 5 回常任理事会は, 12 月 5 日(土)に駒
 沢大学において開催予定。

2009 年度 第 3 回常任理事会議事録

日 時: 2009 年 8 月 2 日(日) 午後 4 時 00~午後
 6 時 30 分

場 所: 京都大学 吉田南総合館北棟 4F 機構セ
 ミナー室

出席者: 森下高治理事長 藤田主一副理事長

浮谷秀一 井上孝代 大坊郁夫 田中真介
 谷口泰富 田之内厚三 玉井寛 内藤哲雄
 藤森立男 蓮花一己 (以上 12 名)

委任状: 川本利恵子 所正文 向井希宏

事務局: 浮谷秀一(事務局長)

I. 報告事項

1. 理事長挨拶

2. 各委員会報告

(1) 機関誌編集委員会(代理: 藤田副理事長)

①2 週間ほど前に『国際応心英文特集号』が
 発行された。

②第 34 巻第 2 号は, 総説 3, 原著 4, 資料 1,
 短報 5, 実践 2, 特集 3 を掲載する。9 月の
 第 76 回大会までに発行の予定である。

③浮谷事務局長より, 所機関誌編集委員長の
 作成資料, 「編集委員会からのご報告」をも
 とに現状報告がなされた。

(2) 企画委員会(田之内委員長)

1) 第 1 回企画委員会(7 月 28 日)の報告が
 なされた。要点は以下のとおりである。

①公開シンポジウムの開催日時は, 平成 21
 年 12 月 5 日(土) 13:30~16:00 に駒澤
 大学で開催することが決定した。

②テーマは「目撃証言・供述はどこまで信用
 できるのか?—裁判員制度と応用心理学
 —」に決定した。

③話題提供者として, 厳島行雄先生, 伊東裕
 司先生に依頼し承諾された。大橋靖史先生
 とは現在交渉中である。

④指定討論者として, 伊藤芳朗先生, 齊藤勇
 先生に依頼し承諾された。

(3) 広報委員会(藤森委員長)

1) 新たな広報誌の創刊(案)についての報告
 がなされた。要点は以下の通りである。

①雑誌名は『応用心理学のクロスロード』で

検討中である。

②次年度から、年1回、5月頃発刊を予定している。

③従来のニューズレターは年1回、11月頃発行する。それに対して、11月も『応用心理学のクロスロード』にしてはとの意見があった。

④経費については現在調整中である。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)

①2009年度前期の申請者3名について認定された。

②後期の応募者が増えるよう、第76回大会で告知する予定である。

(5) 国際交流委員会(内藤委員長)

1) 2010年メルボルンで開かれる国際応用心理学会議での司会および企画担当の蓮花委員より報告がなされた。要点は以下の通りである。

①招待シンポジウム「日本における高齢化のシンポジウム」として提出した。

②締め切りは6月の予定であったが、12月初旬までに延期された。

(6) 若手研究者支援委員会(蓮花委員長)

①第76回大会時で支援に取り組む予定である。

②学会活性化プロジェクトチームとも連動して、活動内容を検討中である。

(7) 学会活性化プロジェクトチーム

(蓮花リーダー)

①メンバーは、浮谷秀一、松浦常夫、田之内厚三、玉井寛、藤森立男、内藤哲雄、磯友輝子、谷口淳一である。

②第1回会議(8月2日)では、「他学会との協力」や「他学会より優位に立つために」等を中心に話し合った。第2回会議は、12月5日(土)公開シンポジウム前に予定である。

③2010年3月に中間報告、5月に最終報告を提出する予定である。

3. 2009年度第76回大会について

(代理:浮谷事務局長)

①発表件数は100件を超え、3桁になった。発表の日程も決まり、各発表者にメールに

て連絡済みである。

②大会ポスターが各常任理事に配布され、広報活動の依頼をした。

③プログラムは大会2週間ほど前に完成予定である。

④理事会は、大会前日(9/11)午後3時から大学構内で開かれる予定である。常任理事会は13日昼に予定している。

II. 審議事項

1. 論文投稿者A氏に関する件(藤田副理事長)

(1) 一般会員A氏の投稿論文取り扱いに関し、データ使用許可に関する所属長の承認書類が提出されたことが報告された。これを受け、以下の通り決定し了承された。

①第34巻第2号に掲載が決定していた論文について、第35巻第1号に掲載する。

②上記1)に関するA氏への対応は、藤田副理事長から現機関誌編集委員会へ引き継ぎ、所委員長が行う。

③A氏投稿のその他の論文についても、公的機関のデータが扱われている場合は、各1論文につき1通、所属長からの承認書類の提出を求める。

④上記3)については、通常業務として現機関誌編集委員会が行う。

(2) 投稿論文の審査に関し、以下のとおり決定し了承された。

①投稿論文の審査に際し検討を要すると判断される場合は、機関誌編集委員会から、投稿者に判断のための資料提出を求める。

②機関誌編集委員会で、倫理問題の検討に付すると判断された論文に関しては、常任理事会にて審議を行う。

(3) 今後起こり得る同様事例への対策として、関連した事項を確認してもらった添付表を作成し投稿時提出を求めること、審査のルールを明示すること等の必要性が話し合われた。

2. 2009年度決算委関する件(浮谷事務局長)

①前回指摘された修正をした予算書(案)が提示され承認された。

3. 2008年度決算に関する件(浮谷事務局長)

①2008年度決算書が報告されたが、まだ機

関誌編集関連などに未確定な部分があるため、監事の監査を受けた後に常任理事には配信することにし、了承された。

4. 新入会員審査および会員異動に関する件

(浮谷事務局長)

①新入会員について審査が行われ、申請者10名全員承認された。

橋本昇 徳安秀正 丸山千歌 藤井桂子
小澤伊久美 金沢吉展 渡邊ひとみ 上野
まどか 吉武久美 大島朗生

5. その他

(1) 年会費長期滞納者について報告がなされ、以下の通り決定した。

①10月末を目処に、各常任理事の知人がリストに載っていれば声掛けをする。

②12月の次回常任理事会で最終的な対応を決定する。

(2) 9月5日までに理事会・総会資料として、各委員会委員長に下記の資料の提出の依頼があった。提出先は浮谷事務局長宛。

①昨年度の活動報告

②今年度の事業計画

名誉会員のご逝去

わが国の産業心理学を中心とした応用心理学の発展に大きな貢献をされた「金子秀彬先生」がこの度ご逝去されました。金子先生は慶應義塾大学で1973年に開催された日本応用心理学会第40回大会の大会委員長を務められるなど、本学会の発展にも寄与されました。謹んでご冥福をお祈り致します。